

## スペシャリストの素顔

医療現場ではさまざまな職種の職員が働いています。その中から、スペシャリストとして診療看護師をご紹介します。

### ■ 診療看護師 (JNP)

東京医療センター

平田乃尚子 さん

診療看護師

(NP、国立病院機構  
ではJNP)



厚生労働省が進めるチーム医療のキーパーソンとして、2008年から養成が開始された。5年以上の実務経験、大学院NP養成コース(2年)修了、そして一般社団法人日本NP教育大学院協議会が実施する試験に合格してNPを取得できる。

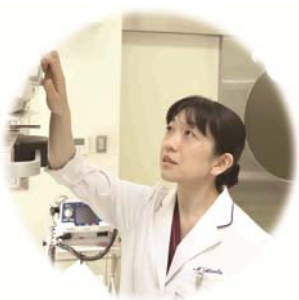
### 診療看護師を目指した理由は？

国立病院機構では診療看護師を JNP (Japanese Nurse Practitioner) と呼んでいます。JNP は“チーム医療のキーパーソン”として、看護についての高度な思考力・判断力・実践力を備えた看護師とされています。また、厚生労働省が定めた特定の診療行為(21区分38行為)も行うことができます。こうしたことから、日本看護協会が認定する認定看護師は特定の領域でのスペシャリストといえますが、JNP はむしろジェネラリスト(広範囲な知識・技能・経験をもつ人)といえるでしょう。

私は看護師としての経験の中で、すごく悔しい思いもたくさんしました。自分の知識不足もありましたし、患者さんの容体の変化をどこまで正確に医師に伝えられたのかと。そうした経験が JNP 取得へと突き動かしました。

## JNP のチーム医療の中での役割とは？

NP を取得している看護師はまだまだ少なく（全国で 300 人程度）、その職場も多岐にわたるため、役割の構築にチャレンジしているところではないでしょうか。一般に看護師は医師の直接指示がないと特定行為を行えませんが、JNP は包括的指示に基づく手順書に従い特定行為を行うことができます。



私の場合は救命救急センターに配属されているので、たとえば手順書を基に動脈採血を行う

ことで、より早く医師にその結果を示すことができます。また、医師のカンファレンス（検討会）に同席するので、そこで得た患者さんの医学的な情報を他の看護師にフィードバックし、必要なケアを一緒に考えています。

現在、早期離床チームを立ち上げ、いかに早く患者さんの離床につなげるか、そして、退院後のことも考えて ADL（日常生活動作）や QOL



（生活の質）を上げられるか、チーム医療の中で医師と看護師のいわば仲立ちとなり、誰でも実践できるような新しいシステムを作り上げることが役割だと自分は考えています。

## 看護師、そして JNP としてのモットーは？

“もしも患者さんが自分の家族だったら”という気持ちを常に忘れずに仕事に取り組んでいます。また、“医師、看護師それぞれに考えがある”より医学的知識が増えたことで、両方の立場の違いを少しは理解できるようになったと思います。そこからはチーム医療の問題点や改善点も見えてきます。それぞれの立場を理解し、その間を埋めながら、何よりも患者さんの早期回復につながるよう、成長し続けたいです。